

＜経営者に休息は罪悪＞

中日新聞「中日懇話会」の記事で、C.C.壺番屋創業者宗次徳二氏が「のんびりとか休息は経営者にとって罪悪だ」と思う。働き方改革とかワークライフバランスと言うが、私に言わせれば、目標がない人の発想。経営者は業績が上がることが一番楽しい。生き方は人それぞれだ。」と語っています。日経トップリーダー7月号テーマは「社長脳を呼び覚ます。事業に熱狂していますか」大阪府摂津市の菓子の野、小売業の吉寿屋(よしや)創業者の神吉秀次会長「午前4時、菓子の山積み段ボールに向かって、深々と礼をし、大声で感謝の挨拶も始めた。お菓子の皆さま、おはようございます。今日一日よろしくお願ひします。ありがとうございます。……46時中、菓子のことを思い続けているうちに甚か経験が研ぎ澄まされる。どうしたら社員が幸せになるか。そのためにお菓子をどう売ったらいいか考えている。」会長は午前3時30分出社。社長は5時に出社しメールチェックを済ませ、6時からトイレ掃除を開始。戻り、宗次徳二氏「繁盛の秘訣は、現場主義を貫く商売の姿勢。お客様が来たら頭もあげてレガリあいさつし、一日何回も掃除する。自分の店だけでなく、200mぐらい先まで。現役時代一年365日、毎日朝3時55分に起きていた。睡眠時間は平均4時間。被災地の寄付は欠かさない。私のかばんは千円、時計は7,500円、ネクタイは500円、シャツは9,800円。これで十分だ。自分のために使うことは恥しいことだ。」

今の事業に経営者が熱心で、全てを事業に徹している。そのためには、自分がやりたいことを仕事に取り込み、仕事にワクワク熱狂する。そして、どうなりたいかの目標をもつ。

高林幸裕